

平成29年度(2017年度)地区協議会事業について

I 地区協議会とは

① 定義

地区協議会とは、地区の特性と資源をいかして、地区の課題を地区自らが解決し、さらに地区の魅力発信および向上に主体性を持って取り組む組織です。区域は、町田市町内会・自治会連合会の地区連合会の組織単位である10地区を基盤としており、現在10地区中、9地区で設立されています。対話を通じて連携・協力しながら、課題解決に取り組んでいます。

② 構成団体

地区協議会の設立には、市内全域にわたって組織され、地域社会を支えている町田市町内会・自治会連合会の地区連合会、町田市青少年健全育成地区委員会、町田市民生委員児童委員協議会の参加が必要です。その他の構成団体は各地区協議会で異なっており、小・中学校や大学、社会福祉法人や消防団など、様々な団体が参加・協力しています。



【住民ワークショップ事業】
原町田地区協議会



【地域交流事業】
忠生地区協議会



【鶴川くらしの総合相談事業】
鶴川地区協議会

II 地区協議会への支援

地区協議会は、地区の課題解決に取り組むネットワーク組織として、地区の中核を担う役割が期待されています。市は地区協議会と連携・協力しながらよりよい地域社会づくりを推進していくと共に、地区協議会の活動の魅力や効果を積極的に発信し、支援しています。

地域予算の交付	活動場所の提供	担当職員の配置
課題解決や魅力発信を目的とした事業に対し、「地域予算」として100万円を限度とした補助金を、地区協議会に対して交付しています。	地区協議会や構成団体の活動拠点となり、会議や事業に使用することができる「地域活動室」を市民センターなどに設置しています。	地区協議会の運営や活動を支援するとともに、行政とのパイプ役を担う市職員として「地域おうえんコーディネーター」を配置しています。

『魅せる化』の推進

市では、町田市ホームページに地区協議会の活動について掲載し、情報発信を図ると共に、事業への参加・協力等呼びかけています。また、2018年1月21日には、全地区協議会活動の発表を行う「地区協議会自慢大会」を市民フォーラムにて開催しました。158名の来場者の前で、各地区協議会が特色ある活動について発表し、大変盛況でした。



【自慢大会の様子】

Ⅲ 2017年度各地区協議会の事業（補助金対象事業のみ）

地区協議会名	南地区協議会		
実施事業	「広報広聴事業」「防災防犯事業」		
補助金	705,100 円	スタッフ数	のべ 32 名

地区協議会名	原町田地区協議会		
実施事業	「広報広聴事業」「地域交流事業」「住民ワークショップ事業」		
補助金	538,956 円	スタッフ数	のべ 56 名

地区協議会名	町田第二地区協議会		
実施事業	「広報広聴事業」「防災防犯事業」「高齢者の見守り事業」		
補助金	256,262 円	スタッフ数	のべ 15 名

地区協議会名	玉川学園・南大谷地区協議会		
実施事業	「地域子ども育成塾事業」「玉南まちカフェ地域交流活性化事業」ほか7事業		
補助金	898,030 円	スタッフ数	のべ 48 名

地区協議会名	木曾地区協議会		
実施事業	「広報広聴事業」「地域活性化事業」「地域交流事業」		
補助金	674,131 円	スタッフ数	のべ 90 名

地区協議会名	忠生地区協議会		
実施事業	「広報事業」「交流親睦事業」		
補助金	839,459 円	スタッフ数	のべ 66 名

地区協議会名	鶴川地区協議会		
実施事業	「鶴川くらしの総合相談事業」「鶴川災害対策会議事業」ほか4事業		
補助金	998,335 円	スタッフ数	のべ 346 名

地区協議会名	小山・小山ヶ丘地区ネットワーク協議会		
実施事業	「安全・安心な街づくり事業」「オープンガーデン広報事業」ほか2事業		
補助金	1,000,000 円	スタッフ数	のべ 190 名

地区協議会名	相原地区協議会		
実施事業	「大学との連携事業」「住民の生きがいをづくり事業」ほか2事業		
補助金	949,452 円	スタッフ数	のべ 160 名

【全地区合計】 補助金：6,859,725 円 スタッフ数：のべ 1,003 名

町田市
地区協議会



2017年度活動報告
地域の「いま」ができるまで

2018年1月21日（日）13:00～15:00
町田市民フォーラムホール

もくじ

1. 地区協議会について	4
• 「協働」の定義	
• 地区協議会とは？	
• 「町田市地域経営ビジョン2030」	
• 町田市の地区協議会への支援	
• 地区協議会の区域	
2. 各地区協議会の紹介	6
(1) 南地区協議会	
(2) 原町田地区協議会	
(3) 町田第二地区協議会	
(4) 玉川学園・南大谷地区協議会	
(5) 木曽地区協議会	
(6) 忠生地区協議会	
(7) 鶴川地区協議会	
(8) 小山・小山ヶ丘地区ネットワーク協議会（ONW協議会）	
(9) 相原地区協議会	

地区協議会について

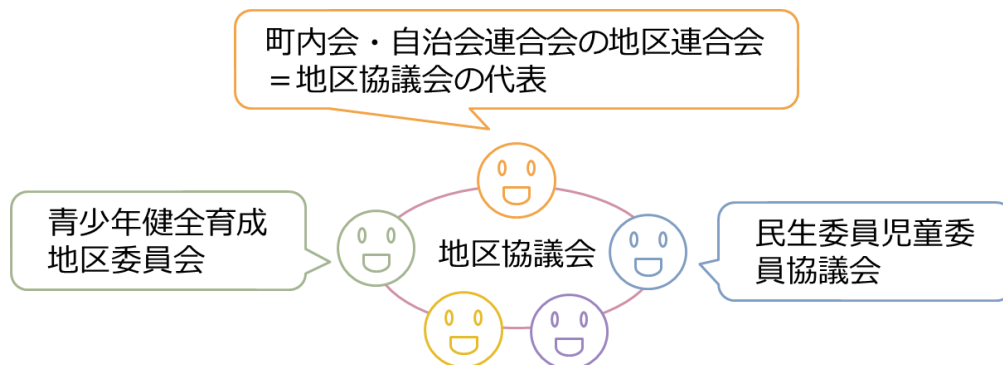
○ 協働の定義

協働とは、地域の多様な主体がお互いを尊重しながら、共通の目的を達成するために協力して活動することです。市では防災、環境、福祉など、各分野の所管課が各分野の協働のパートナーとともに、分野別の課題解決に向けた取組みを進めてきました。しかし、時代の変化と共に社会のニーズが多様化した今、地区で活動する団体間で地区の課題を共有し、協力して課題解決に向けた取組みを行うことが必要となってきました。

そこで、市では2013年12月に「町田市『協働による地域社会づくり』推進計画」を策定しました。この計画に基づき、地域団体、市民、市が多角的重層的に協働していくための仕組みづくりとして、地区協議会を設立し、連携しながら課題解決に取り組んでいます。

○ 地区協議会とは？

地区協議会とは、地区の特性と資源をいかして、地区の課題を地区自らが解決し、さらに地区の魅力発信および向上に主体性を持って取り組む組織です。市内全域にわたって組織され、地域社会を支えている町田市町内会・自治会連合会の地区連合会、町田市青少年健全育成地区委員会、町田市民生委員児童委員協議会の参加が必要になります。その他の組織メンバーは各地区協議会で異なっており、小・中学校や高校、大学、社会福祉法人、消防団など、様々な団体が参加・協力しています。



○ 「町田市地域経営ビジョン2030」

市では2013年12月に策定した「町田市『協働による地域社会づくり』推進計画」の後継計画として、2017年3月に、「町田市地域経営ビジョン2030」を策定しました。地区協議会をはじめとする多様な主体が力を合わせ、地域資源を活用して未来へと続く地域をつくりあげていくことを「地域経営」と定義し、未来のビジョンを共有しながら、地域社会づくりの推進を目指しています。



○ 町田市の地区協議会への支援

地区協議会は、地区の課題解決に取り組むネットワーク組織として、地区の中核を担う役割が期待されています。そのためには、活動に関わる人や地域団体が増えていくことが必要です。市では、活動場所の提供や地域予算の交付、地域おうえんコーディネーターによる人的支援など、地区協議会と連携・協力しながらよりよい地域社会づくりを推進していくと共に、地区協議会の活動の魅力や効果を積極的に発信し、支援しています。


地域おうえんコーディネーターとは…

各地区協議会の運営や活動を応援している市職員です。行政と地区協議会のパイプ役を担っているほか、地域活動に関する相談対応など、様々な場面で地域と連携し、活躍しています。

○ 地区協議会の区域

地区協議会の区域は、地区連合会の組織単位である10地区を基盤としており、現在10地区中、9地区で設立されています。

次ページからは、各地区協議会の取り組みを紹介します。

- 
- ① 南地区協議会
 - ② 原町田地区協議会
 - ③ 町田第二地区協議会
 - ④ 玉川学園・南大谷地区協議会
 - ⑤ 木曽地区協議会
 - ⑥ 忠生地区協議会
 - ⑦ 鶴川地区協議会
 - ⑧ 小山・小山ヶ丘地区ネットワーク協議会（ONW協議会）
 - ⑨ 相原地区協議会

南地区協議会

区域：金森、鶴間、小川、つくし野、南つくし野 構成団体：25団体
成瀬が丘、金森東、南町田

【2017年度に行っている主な取り組み】

- 広報広聴事業（ニュースおよびチラシの発行）
- 防災防犯事業・「防災の集い」
- 高齢者の見守り事業（認知症セミナー）
- 子どもの見守り事業（通学路の見守り）

強みを活かして連携を ～地区を支える三本柱～



▲認知症セミナーで行った「笑いヨガ」。



▲見守り活動は、地元の警察とも協力。



▲「防災の集い」では、炊き出し等を実施。

南地区協議会では2016年度に、構成団体がそれぞれの活動発表を兼ねた事業を展開する「南カフェ」を南市民センターで開催しましたが、南地区は広く団体の数も多いため、焦点がぼけてしまい団体同士の連携もできなかったという反省がありました。そこで2017年度は、無理にすべてを一緒にやるのではなく、それぞれが団体の強みを生かした事業を開催し、そこに他の構成員を巻き込んでいくという形をとることにしました。

民生委員児童委員協議会では高齢者向けの認知症セミナー、青少年健全育成地区委員会では子どもの登校時の一斉見守り、南地区町内会・自治会連合会では「防災の集い」をそれぞれが中心となって開催し、地区協議会の構成団体が事前の広報や・当日の手伝いなど、お互いに様々な面で協力しました。

他の団体を巻き込んで事業を行っていくことで、お互いの情報共有が促進され、団体間の理解が深まったのを感じています。南地区は広く、地域性が多様であり、その分課題も多様化しているため、今後も地区協議会を通して団体間の理解を深めながら、連携等の可能性について探っていきたいと考えています。

MEMO

原町田地区協議会

区域：原町田 構成団体：9団体

【2017年度に行っている主な取り組み】

- 広報事業（ニュース発行）
- 地域交流事業（ふれあいまつり）
- 子どもの見守り事業（通学路見守り）

地区の人達全員の魅力を集めたイベントを目指して



▲発表や様々な団体の出展など、会場は一日中にぎわいました。

中心市街地のある原町田地区は、人や車の往来が激しい地区。そのため、信号のない狭い道路でも、見守り活動が行われています。そんな原町田地区では、毎年子ども達をはじめとした地区の人達の交流を深めるため、「ふれあいまつり」を開催しています。

青少年健全育成地区委員会が主催していたカレーパーティが原型。地区のお母さん達が一生懸命頑張ってくれていましたが、人手不足が大きな課題になっていました。そのため、もっとより沢山の人が関われる仕組みづくりのため、原町田地区協議会で事業化。小学校の校庭を利用して、カレーの提供だけでなく、出店やステージによる活動発表を行うイベントとして形を変えました。テーマは「和になってあそぼう」。従来通りカレーが振る舞われるだけでなく、ステージやミニゲームコーナーなど様々な企画が行われ、子ども達を中心に、地区の人達が多く参加してくれています。

現在は、地区協議会全体でイベント開催のためのノウハウを共有中。ステージや大人の発表の場など、改善の余地はまだ沢山あると認識しています。今は子どもが中心のイベントですが、原町田地区に住む人達が自分の活動を発表し、その魅力を共有できるイベントにしていくため、今後も検討を重ねていきます。

MEMO

町田第二地区協議会

区域：森野、中町、旭町、本町田 構成団体：21団体

【2017年度に行っている主な取り組み】

- 高齢者の見守り事業（認知症に関する講座開催）
- 防災防犯事業（避難所開設訓練、一斉防犯パトロール）
- 子どもの見守り事業（登下校時の見守り）
- 広報広聴事業（ニュース発行）

暮らしやすく、参加しやすい地区を目指して



▲避難所開設訓練は、実際に小学校で行いました。



▲清掃活動とあわせて行った一斉パトロール。ベストを着て区内を回りました。

区域が広く、課題も多様化している町田第二地区。そのため、町田第二地区協議会では、「防災・防犯」「子どもの見守り」「高齢者の見守り」という、地区全体で共通している3つの課題について、取り組みを進め、地区ごとに異なる課題については、それぞれが解決のために動くという体制をとっています。

「防災・防犯」事業では、避難所で使用する備品を整備するとともに、実際にそれらを利用した避難所開設訓練を行いました。また、一斉防犯パトロールを通して、地区全体の防犯意識の醸成を図りました。「子どもの見守り」事業では、従来から行っていた子どもの登校時の見守りだけではなく、下校時の見守りにも取り組み始めています。そして「高齢者の見守り」事業では、認知症に関する勉強会を各地で開催し、理解を深めながら今後の事業展開に向けた準備を行っています。

今後も、上記の取り組みを続けながら、より一層活動の拡充を図っていきます。あわせて、それらの活動に様々な人が気軽に関わることができる仕組みづくりを検討していきます。いつまでも住み続けたいと思える地域を目指して、連携の輪を広げていきたいと考えています。

MEMO

玉川学園・南大谷地区協議会

区域：玉川学園、東玉川学園、南大谷 構成団体：27団体

【2017年度に行っている主な取り組み】

- 地域子ども育成塾事業 ○玉南まちカフェ地域交流活性化事業
- 地域マップづくり まちの特徴と課題を知る事業 ○はなびら市支援 開催広報活動事業
- 「玉ちゃんサービス」高齢者に便利なまちづくり事業 ○広報事業
- 子どもが元気に遊べる広場づくり事業 ○防犯カメラ設置 安心なまちづくり事業
- 空き家・空き部屋・広い庭の活用事業

「やりたい事業」を形にできる仕組みづくり ～玉ちゃんサービス～



▲事業は広報紙で広く募集。



▲「たまちゃんサービス」のパンフレットも作成！

玉川学園・南大谷地区協議会では、事業案を募集し、その中から応援したい事業に対して事業費補助を行っています。構成団体の多くが理事にもなっており、構成団体の総意により地区協議会の運営を行っています。そのため、事業提案数も多いのが特徴です。また、事業については誰もが気軽に提案できるように、個人の方の考えを事業化したものでも受付をしています。

その取り組みの一つとして、「玉ちゃんサービス」の活動を広げるために、広報の支援を行っています。玉ちゃんサービスとは、玉川学園地区社会福祉協議会が主体となって行っている、まちに住む人同士が支え合う訪問サービスのこと。利用者の要望と協力者（サービス提供者）の都合に合わせ、ケースに応じて柔軟に色々なサービスを提供しています。現在、利用者、協力者、賛同者（サービスを使っていないが、玉ちゃんサービスを応援している人）あわせて117名が関わっています。

構成団体間の横のつながりが弱いので、今後は複数の団体が一緒に事業を行うように働きかけを行うなど、工夫していくことを考えています。また、活動している人たちが同じメンバーになることが多いため、あわせて新しい担い手を見つけていく工夫をしていく予定です。

MEMO

木曽地区協議会

区域：木曽西、木曽東、木曽町 構成団体：16団体

【2017年度に行っている主な取り組み】

- 広報広聴事業（事業説明会）
- 地域活性化事業（木曽地区スタンプラリー）

歴史をきっかけに、地区がひとつに



▲スタンプラリーのマップを作成。ルートはみんなで話し合いながら決定しました。



▲当日は雨天でしたが、企画や準備を通して、交流が深まりました。

木曽地区協議会では、子ども達にもっと木曽地区のことを知ってもらいたいという思いから、スタンプラリー大会を実施しました。元々、青少年健全育成地区委員会が作成した木曽地区の歴史にまつわる冊子があり、それをベースにしながらかheckポイント等を選択していきました。残念ながら当日は雨が降ってしまいましたが、「またぜひやってほしい」という声も聞こえているため、今回のノウハウを活かして、再度開催する予定です。

地区協議会の中で、様々な団体に関わることによって、事業実施にあたって気付いた点が多くありました。例えば事故に関する予防策や、小学校の授業でも神社仏閣等をめぐっているという情報提供や共有など、様々な情報を集めていく過程で、お互いのこともよく知ることができました。

このほか、木曽地区協議会では、ゲームを通じて具体的に避難所運営について考えることが出来る体制を整えました。小学校の体育館の正確な図面を用意し、カードを用いて、「このような時はどうすればいいのか?」といった具体的な検討を行うことができます。今後も多くの人達にこのゲームを体験してもらい、有事の際にはスムーズな避難所運営ができるよう目指しています。

MEMO

忠生地区協議会

区域：根岸町、忠生、山崎町、函師町、矢部町、常盤町
上小山田町、下小山田町、根岸、小山田桜台、山崎1丁目

構成団体：24団体

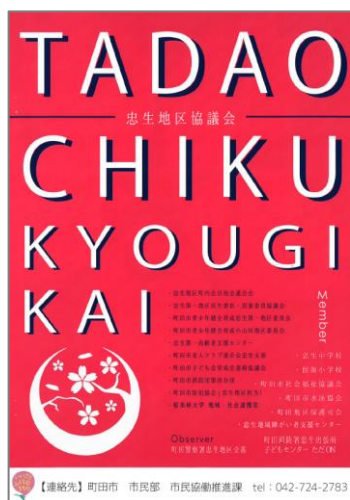
【2017年度に行っている主な取り組み】

- 広報事業（大学でのPR活動）
- ホームページ作成事業
- 交流親睦事業（忠生子ども芸能まつり）

地区に住む子ども達が誇れる「ふるさと」をつくるために



▲ブラスバンドや和太鼓など、様々なジャンルの発表がありました。



▲ロゴマークやチラシのデザインは、桜美林大学の学生が作成。

地区協議会が設立されたことにより、多様な団体が定期的集まり、地域の中で情報の交換や共有を行うことができました。話し合いを重ねていくうち、忠生地区では様々な場所で、子ども達が活動を行っているということが分かってきました。そのような子ども達や、その親の励みになる場を作りたいという話になり、「忠生子ども芸能まつり」が企画・実施されました。

参加団体を集めるため、子どもセンターただONや小中学校などと連携し、情報の発信および収集を行いました。また、町内会・自治会を通して、地域全体にこのイベントの開催が浸透するよう工夫しました。当日は11団体が参加、600名が来場し、会場となった忠生市民センターは、大変盛り上がりました。今の子ども達にとっては、この場所が「ふるさと」になります。そのため、改めて忠生地区のいいところを、子ども達に再発見してもらえよう事業を行っていきたく考えています。

また、桜美林大学とも、忠生地区協議会は密接に関わっています。団体のロゴマークやチラシのデザインは、桜美林大学の学生が作成したものです。桜美林大学の大学祭にも地区協議会として参加し、PRチラシを配布しながら、認知症カフェを運営しました。

MEMO

鶴川地区協議会

区域：金井、金井町、薬師台、大蔵町、能ヶ谷、鶴川、広袴、広袴町 構成団体：49団体
真光寺、真光寺町、小野路町、野津田町、三輪町、三輪緑山

【2017年度に行っている主な取り組み】

- 広報広聴事業 ○鶴川くらしの総合相談事業（3水スマイルラウンジ）
- 鶴川deハロウィンウォーキング事業 ○鶴川地域活動フェスタ事業
- 鶴川災害対策会議事業 ○鶴川見守りあいさつ運動事業
- 地域活性化事業（子ども食堂、みんなで歌おう音楽祭、鶴川囲碁将棋ネットワーク）

目指すのは、地区の人達が気軽に集う「交友拠点」



▲座学だけではなく、
体験型の講座も行っています。



▲情報は毎月発行の広報紙で発信！

鶴川地区協議会では、毎月第3水曜日に、ポプリホール鶴川の交流スペースにて、地域住民の交流を行う「3水スマイルラウンジ」を始めました。高齢者支援センター、子育て相談センター、社会福祉協議会、生涯学習センターなどは「地域とより密接に関わり、連携していくこと」を要請されていますが、なかなかその機会がなく、各々活動を続けていました。月一度、関係機関がここで一堂に集まる事により情報の共有ができ、地域に密着した活動ができるようになりました。

新しいことを始めるというより、「鶴川をよくしたい」と思って活動している団体が出会う場を設けることで、新たな気付きを得られる場にできればという考えのもと、毎月開催しています。子育てやボランティア情報の共有、月替わりの講座や相談会など、様々な形で交流が図られています。また、普段なかなか関わり合いになれない団体が顔を合わせることで、高齢者支援センターと子育て相談室と一緒に新たな事業を行うことになりました。

参加者が固定化してきていることと、「3水スマイルラウンジ」が一人歩きしてしまい、地区協議会そのものの知名度が低いことが課題。新聞社や地元企業と連携することで広報の幅を広げ、鶴川地区に住む人達が当たり前知っている団体になることを目指していきます。

MEMO

小山・小山ヶ丘地区ネットワーク協議会

区域：小山町、小山ヶ丘 構成団体：16団体

(ONW協議会)

【2017年度に行っている主な取り組み】

- オープンガーデン事業
- ふれあいを深める事業（ふれあいウォーキング）
- 安全・安心な街づくり事業
- ONW協議会広報事業

新旧住民の架け橋になる花と緑



▲マップ付のパンフレットを作成。



▲小山・小山ヶ地区の花壇を、住民の方に知っていただきました。

新旧住民・多世代間の交流促進を課題としている小山・小山ヶ丘地区において、ONW協議会は、地区内で自慢の花壇（コミュニティ花壇）を一定期間一般公開していただき、花や緑を通じて人々がふれあう事業、「オープンガーデン」を開催しています。

ガーデン公開者は公募で集め、町内会・自治会役員の声掛けや回覧による情報共有をはじめ、各団体のネットワークを利用して、事業の周知に努めています。花木で飾られたきれいな庭を持つ個人の方達に、もっと大勢参加してもらうため、オープンガーデンの主旨を丁寧に説明していきたいと思っています。小学校や保育園からの協力も増えており、今後は地区内にある企業にも声をかけていく予定です。この取り組みが小山・小山ヶ丘から町田市内全域に広がることを目標に、これからも続けていきます。

また、新旧住民・多世代間のふれあいを深める事業「ふれあいウォーキング」にも力を入れています。若い世代を巻き込む仕組みとして、多摩美術大学やサレジオ工業高等専門学校などに協力を仰ぎ、ライブペインティングやソーラーSL運行などのイベントで活躍してもらっています。2017年度は雨天のため中止となりましたが、今後も住民同士をつなぐため続けていきます。

MEMO

相原地区協議会

区域：相原町 構成団体：12団体

【2017年度に行っている主な取り組み】

- 広報・広聴事業
- 住民の生きがいづくり事業（ガラスフュージング千の花事業、相原地区ファミリースポーツ普及事業、おしゃべりクッキング事業、小さい人形劇事業）
- 地域活性化事業（真米の環境整備事業、相原にぎわい創生事業、相原歴史研究事業）
- 大学との連携事業

頑張る団体を応援して、地区全体を元気に ～ガラスフュージング千の花～



▲集まることで会話が生まれ、交流が深まります。



▲広報紙では、応援している団体の声を紹介。

相原地区協議会では、自身で事業を行わず、相原地区内で活動している団体を応援することで、地区全体の活性化を図っています。そのひとつであるガラスフュージング千の花は、ガラスを組み合わせでデザインし、小物を作成している団体。子どもから大人まで作業が可能で、作成過程の中で交流の場づくりを行っています。

千の花は、もともと子どもセンターばおで事業を行っていました。活動を始めた当初から、そこに通う子ども達の親からも「私もやりたい」という声が多く聞こえていましたが、子どもセンター内で行う事業はあくまでもセンターに通う子ども達のために行うものであり、なかなか広げるのは難しいという課題がありました。そこで、地区協議会として事業化し、継続・安定して事業を行えるよう環境を整備するとともに、対象者や機会を増やしていきました。

団体が地区協議会のネットワークと連携したことで、町内会・自治会や社会福祉協議会など他団体とのつながりが深まり、多くの人達に参加してもらうことができます。また、口コミにより新たな参加者が増えています。今後も様々な分野で関わる人を増やし、相原地区のつながりづくりを進めていきます。

MEMO

町田市町内会・自治会連合会 ホームページで旬な話題を発信中！



スマート
フォンでも！



主なコンテンツ

- ①町田市町内会・自治会連合会の紹介
- ②地区連合会の紹介
- ③活動の紹介
- ④連合会加入のご案内
- ⑤地区協議会への参画
- ⑥町田市とのかかわり（補助制度等）
- ⑦お知らせ&トピックス（随時更新）
 - ・会長研修会
 - ・地区交流事業
 - ・連合会総会
 - ・都町連報告
 - ・「連合会だより」電子版
 - ・市政懇談会等の町田市との協働
 - ・その他、連合会活動に関する内容

<http://machida-shiren.com>

2015年4月に開設した町内会・自治会連合会ホームページでは、市連合会だけでなく市内10地区の地区連合会の活動や取り組みを発信し、毎月3,000件以上のアクセスをいただいています。市内の町内会・自治会の更なる発展と、町内会・自治会の連携の強化のため、ホームページに掲載できそうな情報がありましたら、各地区の会長までお寄せください！

町田市町内会・自治会連合会
電話：042-722-4262

市民活動応援キャラクター「おうえんマン」

市内で活動している団体・個人であれば使用可能！
詳しくは市民協働推進課（042-724-4362）まで



地域と一緒に



発行：2018年1月21日
町田市市民部市民協働推進課
042-724-4362（直通）

地区協議会の活動の様子は、町田市のホームページにも
掲載されています！

<http://www.city.machida.tokyo.jp/>